

SSKW

海から海へ

No. 43 2017. 8. 17【編集人】

特定非営利活動法人 海から海へ

〒182-0024 東京都調布市布田1-32-5

マートルコート調布407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp



ノンちゃんとブルちゃん 606x727 1992 © Mizuki Tanaka

海から海へは、障がいをもつ人から渡される豊富なものの存在に気づき、人々と共有するため、障がいをもつ人を中心とした、文化芸術活動、研究活動、社会教育活動、心理カウンセリングなどの支援活動を行うこと、および、それらの活動を通し、障がいの有無にかかわらず、地域・国内・国外を問わず広く交流を深め、人々がより良く生きることに貢献することを目的として活動しています。

田中瑞木展 終了しました

2016年8月21日～2017年7月22日

介護老人保健施設 フロリール調布

感想ノート全文を掲載します

今回の企画展のご協力ありがとうございました。今回のような企画はフロリールでは初めての試みでしたが、ご利用者様の反応が楽しみでドキドキワクワクしていました。飾ってみると、「あらー、すごいわねえ」「すごい迫力」「彩りが豊かで瑞々しい表現ね」「想像力がとても豊かですね」など、非常に多くの反応がありとても嬉しく感じました。施設生活を送っていると、美術館など外に出掛けて芸術に触れる機会などなかなかありませんので、非常に喜んで頂けたように思います。

学生時代はよく絵を観に美術館へと足を運んでいましたが、最近は仕事の忙しさもあり、あまり行けていませんでした。瑞木さんの絵が飾られ、油絵の独特の香りをかいで、また美術館に通って、自分とは異なる様々な感性に触れたかと思いました。

瑞木さんの絵を観て一番感心した点は、何と言っても、どんな枠にも当てはめることのできない“発想の自由さ”であると思います。そこから色彩の豊かさ、表現のダイナミックさが生まれてくるのだと感じました。クジラの周りで“赤い”イカが自由に泳いでいたり、楽しそうに猫が自転車に乗っていたり、縞々の黄色い葉っぱをつけたすすきがゆれていたりと、瑞木さんの想像力の豊かさには圧倒されました。

瑞木さんが実際に観た物は、瑞木さんの心の中ではこんなに躍動的で楽しそうに生きているんだなど、その感性に心打たれました。

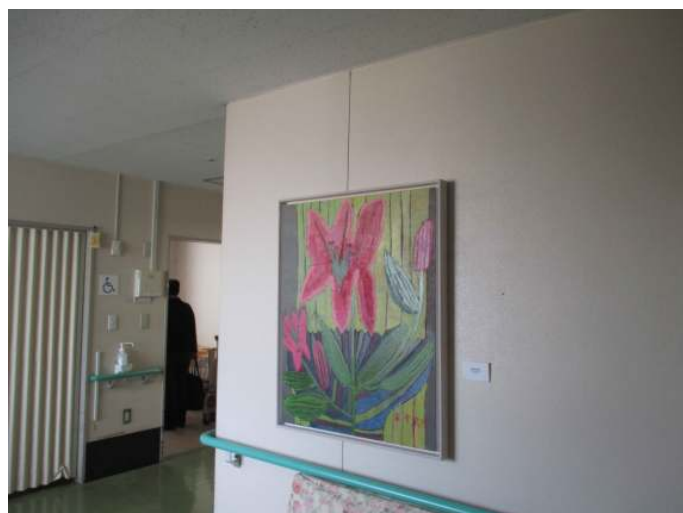
職員もふとした時瑞木さんの絵が目飛び込んできてとても癒やされていました。本当にありがとうございました。

フロリール調布広報委員会 介護職員 根津壮史



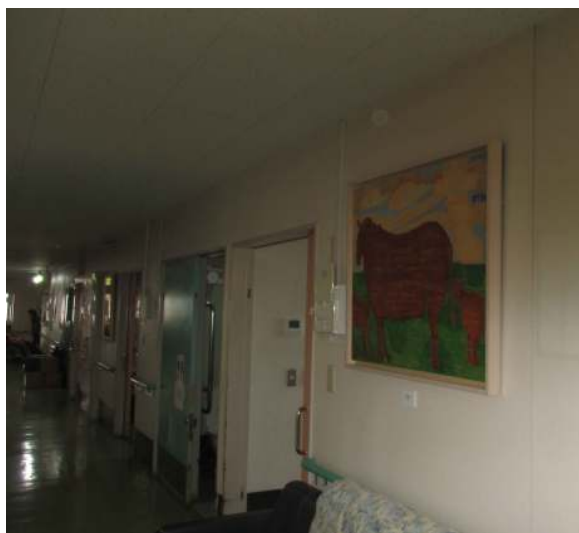
- ◆ パッと開いた赤い花。一瞬これは何？とびっくりするが見事な発想に唯々関心。次は可愛い7匹のうさぎ。又これが唯々感心、とてもかわいい。それとともに大きな牛かと思ったが皆の感想では馬そのものである。なるほど顔は馬そのものである。とても平凡な頭ではとても出てこない発想であると唯々感じたものです。毎日の生活に追われて夢を忘れ勝ちな私達。もう一度振り返って童心にかえりたいものです。(女性利用者)
- ◆ 最近の若い方は想像力がたくましくて素晴らしいと思いました。高校生の頃部活が美術部でその頃のことを懐かしく思い出しました。(女性利用者)
- ◆ 私は正直な所絵心というものがなく、子供の時から絵は苦手です。ですので田中様の絵を見ておどろきました。特に私が「ステキだなあ」と思った作品は花火の絵とくじらといかの絵です。花火の一瞬を独創的にとらえているところが私は好きです。またくじらのダイナミックな描写が、想像力を活かした一枚だと思いました。これからも想像力と創造力を見せて頂けると思うと楽しみです。応援させてください。(男性職員)
- ◆ 全て素晴らしい絵でした。その時その時のことを一生懸命描いたことが伝わってきました。(女性利用者)
- ◆ リハビリで廊下を歩くときの楽しみができました。(女性利用者)
- ◆ すすきの絵の色使いが独特で、風にゆるやかに揺れている様でした。(男性職員)
- ◆ 田中さんの絵を拝見させて頂きました。どの絵ものびのびと天真爛漫で元気にさせてくれる印象がします。私は花の絵が好きでした。娘が生まれたばかりで毎日忙しいのですが、娘が静かに鑑賞できる歳になったら展覧会など一緒に行きたいなと思います。これからもますますのご活躍楽しみにしています。(女性職員)
- ◆ とても暖かな色使いで見ていると楽しくなります。どの絵もずっとみていたいものばかり。ありがとうございました。(女性利用者)
- ◆ 「どの絵もいいわねえ。花の絵と魚の絵が好き」。(女性利用者)
- ◆ 「すごいわねえ。大きくてすごく貫禄があるわ」。(女性利用者)
- ◆ 「パッと開いた花火。遠くで見てもパッと上がってきれいです」。(利用者)
- ◆ リハ室入り口の隣の絵(ハス?)を見て。「きれいね」と。(利用者)
- ◆ 「自由な色合いがすごくいいわねえ。花火は大作でいい絵だねえ」。(男性利用者)
- ◆ 見ていると楽しくなるような色使いがステキです。伸びやかな筆使いも。“ピエロ”大好きです。(職員)

- ◆ 色合いがどうしたらこんな風に出るのだろう？と感動しました！5階にも飾っていただきありがとうございます。(職員)
- ◆ パッと目にとまり、じーっと見ると気持ちが落ちついてきました。色の使い方が素敵です。(職員)
- ◆ 最初見た時なんだかよくわからないなあ～と思いました。けれど何回も見る内にあつもう一度見てみよう、又見たいなという思いが強くなってきました。不思議な世界に招待されたような気持ちになりました。これからもどうぞがんばってください。(職員)
- ◆ 「色がとってもきれいですてきね」。(女性利用者)
- ◆ 「どの絵も素敵です。すごく才能がおありですね。お母さまもすばらしい」。(利用者)
- ◆ 色彩豊かでダイナミックな画風で施設の雰囲気も明るくなり良いと思います。見学の方を案内することも多いですが、皆さま好印象を抱かれています。(職員)
- ◆ 絵のことは自分自身あまりよくわからないが躍動感があり、見ていると自然と引き込まれる感じがする。(職員)
- ◆ 普段油絵を見る機会がほとんどないので、見ていて楽しいです。技術的なこととか込められている感情とかはセンスがないので分かりませんが…。絵がたくさんあると、にぎやかな感じがいいな、と思います。(職員)
- ◆ 殺風景だったフロリールの廊下が賑やかになり、目を楽しませていただきました。(職員)
- ◆ 既成概念にとらわれることなく、描きたいものをご自分の感性のままにのびのびと描いていらっしゃる。すてきなことです！新しい作品を楽しみにしています。(職員)
- ◆ どの作品もはっきりとした、色鮮やかでとても明るい印象を与える作品だと思いました。(職員)
- ◆ 施設の中が華やかになりました。昨今建設されている介護施設(特養・老健・有料・サ高住などなど)は“家”“日常生活の場”というコンセプトで設計されていますが、当施設のような古い施設においては、“病院くささ”が残っており、そのハードを無理やり“生活の場”という雰囲気に改修・改築するということは困難であると思っていました。しかし、今回田中瑞木様の絵画を飾らせていただくことで“ミュージアム”というコンセプトで施設を彩っていくのもとても有効なリノベーションの一つであることに気がつかせていただきました。新設の特養でも“ミュージアム”や“アート”のコンセプトで建設しているところもあるようです。(職員)



- ◆ どの作品も色鮮やかで豊かに描かれていてとても気分が明るくなるものばかりです。色々な花や動物、友達や両親、そして自分自身。たくさんのモチーフを瑞木さんらしさのある表現で見飽きない作品の数々だと思います。(職員)
- ◆ 絵が入れ替わるのを楽しみにしています。(女性利用者)
- ◆ 食事のときにいつも見えています。脳裏から離れません。絵の印象がとても強いです。(女性利用者)
- ◆ 「瑞木さんの絵を見に来ました」とフロリールに来られる方がいましたが、ご家族や面会の方だけでなく、外部の方が施設に足を運ぶ機会はありません。施設を見て頂けるきっかけにもなったと思います。廊下に絵が飾ってある日常が当たり前のようになっており、318号室の前の廊下に絵がないことが寂しく感じるほど、施設の風景を明るくさせてくれていると思います。何もない廊下よりも通る度に絵が目に入り、集中して鑑賞する時間は少ないですが、仕事をしている中にずっと入り込む癒やしの絵になっています。瑞木さんならではの色使いや題材が親しみやすいからこそだと思いました。(職員)
- ◆ 絵と一緒に見てまわり「すごいねえ。きれいだねえ」と感心されていました。鯉の絵？を見て「これは金魚かな？」と言われて「鯉じゃないですか？」と答えると「ああそうかねえ」と。絵を見ながらお話しができました。(女性利用者)
- ◆ 田中瑞木さんへ 当施設で『田中瑞木展—こころとこころが会おうとき—』を開催して頂きありがとうございます。職員一同「施設内が明るくなった！」と嬉しく感じて日々の仕事に取り組むことができます。入所しているご利用者様が感心して見ている姿など今までになかった施設生活を送ることができている様子を知ることができました。またそのご利用者様のご家

族が来訪の折も絵を見ながら話をされていることも見てとれました。ご利用者様にとって施設は生活の場でありながら自宅ではなく閉鎖的と大部分の方が感じていることだと思います。今回のこの取り組みに対して環境が人に良い影響を与えることについて考えることができました。私自身は絵心が無くいつも美術の成績は当時5段階評価で1か2という散々な状況でした。瑞木さんの絵を見て「なんかホッとできる」という感じをもつのですが、それ以上のポキャブラリーが無くそんな自分にほとんど呆れてしまいます。ところで私には8歳になる子どもがいますが、近くの絵画教室に通いたいと言い出してそこで絵を教えてもらっています。好きこそもの上手なれと応援していきたくと思っています。今からでも絵を勉強していきたく思うきっかけを与えて下さったことにも感謝しています。最後になりますが、当施設で開催頂きました田中瑞木展について田中瑞木さんはどのようにお感じになりましたでしょうか？施設の中でご利用者様が生活している場での展示ということで、他の場所での開催とは少し違ったものになってしまったのではないかと気になってしまいます。改めまして開催して頂きありがとうございました。(職員)



田中瑞木展の感想

NPO 海から海へ 理事 川口充朗

約1年間にわたった田中瑞木さんの作品に施設の入居者や面会の方々には大きな額に描いてある色あざやかな力強い作品に感動した様子で、家族にも希望を与えました。また職員の方も今後機会がありましたら展示されることを希望していました。

(川口さんは、お仕事の関係でフロリアル調布の展覧会に接する機会があり、感想を頂きました。)

平成28年度会計報告

(単位：円)

I 経常収入の部	
1. 会費収入	145,000
2. 寄付金収入	120,000
3. 受取利息	19
経常収入合計	265,019
II 経常支出の部	
1. 事業費	
(1)障がいをもつ人を中心とした芸術活動の支援と作品の公開展示	1,000
(2)障がいをもつ人を中心とした心理教育社会福祉研究と実践	0
(3)障がいをもつ人を中心とした交流の促進	0
(4)芸術、教育、心理、福祉などに関する社会教育	0
(5)障がいをもつ人とその関係者のための個別相談、教育支援、生活支援	0
(6)活動に関する広報および成果の公表	47,702
2. 管理費	10,548
経常支出合計	59,250
経常収支	205,769
前期繰越	965,343
次期繰越	1,171,112

編集後記

暑さのピークは過ぎた感ですが、いかがお過ごしでしょうか。フロリアル調布の皆様には田中瑞木の絵を存分に楽しんでいただきました。ご尽力いただいた関係の方々に厚く感謝申し上げます。

9月1日からは杏林大学病院ギャラリーで「魂の贈り物 PartII—田中瑞木展」を開催します。お楽しみに。

なお、今年度は、あらたに会費をいただくことなく活動できる予定です。今後共よろしく願いいたします。(輝)

特定非営利活動法人 海から海へ

<http://umi.or.jp> office@umi.or.jp

振込口座 ゆうちょ振替：00110-0-684539

みずほ銀行 調布支店 普通預金 8082621

2017年8月17日 海から海へ No. 43

編集責任者 阿部公輝

〒182-0024 東京都調布市布田 1-32-5 マートルコート調布 407

Tel 042-441-2958 Fax 042-497-4878

発行所 〒157-0073 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17 ヴェルドウ

ーラ 102 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 200円 無断転載禁止